

## はじめに

浜岡原発は南海トラフ巨大地震の震源域の中にあり、地震の揺れどころか地盤の崩壊も警告されており、世界一危険な原発と言われています。現在 1 号機・2 号機は廃炉が決定し、3 号機から 5 号機は運転が停止されています。しかし核燃料棒は存在しており、冷却が行われています。福島第一原発のようにその冷却に失敗すれば、福島のような事態も考えられます。埼玉県にも避難者受け入れ要請がきており、そうしたことと、福島に何度もボランティアに行き、原発事故避難者の方の話を聞いてきたこともあって、この分科会に参加しました。

## 浜岡原子力館

まずは浜岡原子力館に行きました。

原子力館の展望デッキから浜岡原発が見渡せます。そこで浜岡原発についての説明を「原発問題住民運動全国連絡センター」の村岡さんから受けました。展望デッキからの原発の全景を写すことは禁止されていました。



浜岡原発は現在 3300 人の方が働いています。1 号機・2 号機は廃炉が決定されていて、廃炉作業が行われています。そのため人数が増えているそうです。柏崎刈羽原発は原子炉建屋が 1 列にならんでいます。浜岡原発 1・2 号機は海側に、3 号機から 5 号機はそれと直角に並んでいます。それは断層を避けて建てたそうです。しかし、中部電力は認めていませんが、浜岡原発の 3 号機から 5 号機の真下を活断層が通っているという研究もあります。

また南海トラフ巨大地震による津波を防ぐため、防波堤を建設しています。浜岡原発は崖の上であり、崖と防波堤をあわせて 22m です。しかし中部電力は従来より厳しい条件で試算した結果、押し寄せる最大の津波高は 22.5m と発表しました。防潮堤が 0.5m 足りないのですが、それ以上防波堤を高くすることは技術的に難しいようです。

原子炉建屋の屋上に重要なものはすべてあげてあるそうで、建屋の屋上までが 41m あり、また福島第一原発の事故を受けて、原子炉建屋内への浸水を防ぐための扉を設置したそうです。原発近くの丘の上には 9000 t の水を貯えるプールを作り、いざという時はそのプールから高低差を使って水を流し、冷却水として活用するとの説明もありました。

福島第一原発の事故を受けて、何重にも対策を講じていることは感じました。しかし最大の津波高についても試算にすぎません。自然はときに人間の予想をこえてくるものです。また福島第一原発の事故原因はいまだに解明されていません。津波を受けて、外部電源が海水につき電源を消失したことで冷却できなくなったの事故と一般的には受け止められていますが、津波の前の地震の段階で配管が破損していたとする研究もあります。



人間の技術ももちろん進化発展しますが、原発事故については放射能が一度漏れ出せば、人間がそれを止めるすべも、放射能を無効化することもできません。そうであるなら、絶対安全と言えるのは原発がない状態だと思います。

では原発に頼らず、自然環境に配慮しつつどう電源を確保するのか。その答えを求めて次の会場に向かいました。

## 静岡での新エネルギーの検証

次に訪れたのは男女共同参画センターです。そこに「しずおか未来エネルギー株式会社」の方が来ていて、その方から地域発電所の取り組みを聞きました。

崖崩れや洪水、環境破壊などをもたらす恐れのあるメガソーラーではなく、市民、自治体、NPO教育機関・団体、金融機関、企業が連携。その中核を担うのがしずおか未来エネルギー株式会社です。

市民が出資者です。多くの人に関わってもらうため、1口5万円、1口でもOKで、5年で償還、目標は2000万円を集めること。それを2か月で達成したそうです。

自治体に設置場所を提供してもらおう。ソーラーパネルの設置場所はどこでもいいのではなく、市民が出資する意義や物語がしっかりと描ける場所に設置しようと、市民からもアイデアを募集しました。災害時に避難所となる場所に設置し、非常用電源としても使おうと市とも協議し、公共施設などに設置しました。

NPOや清水エスパルスとも連携し、ワークショップやイベントを行って、理解促進を図っています。設置後も出資者に興味を持ち続けてもらうためのイベントの開催しています。

企業には設備と技術で支援してもらい、金融機関には無担保・無保証人でお金を貸してもらおう。

そうして静岡市内5か所で50kw未満の中小規模の発電を行い、中部電力に売電。5年が経過した今年、目標通り、出資者に上乗せして償還することができたそうです。

お話を聞いていて感じたのは、地球環境問題、エネルギー問題を自分たちの問題ととらえてもらい、どうそこに関わってもらうのか、それが大事であり、その工夫が随所にあるということです。

具体的には清水エスパルスのホームスタジアムの駐車場にソーラーパネルと説明パネルを設置し、

周知を図ったり、静岡市立日本平動物園にソーラーパネルと説明パネル、絶滅危惧種の説明パネルの設置をしたりしていました。



↑ 清水エスパルスホームスタジアム駐車場設置の太陽光パネル



↑ 動物園の地域発電所説明板



↑ 動物園の発電の説明板

## まとめ

危険な原発に頼らず、地球温暖化や環境に配慮した再生可能エネルギーを普及してくためには、一方的な取り組みではなく、市民に関心を持ってもらう工夫をしながら、市民と一緒に取り組んでい

くことがカギだと感じました。